

福岡市社協

「生活支援コーディネーター」についての基本的な考え方

1. 別紙「福岡市における地域に関わる専門職の現状と比較」より解ったこと

- ・生活支援コーディネーター（以下「生支C」）の役割として求められている「資源開発」は、社協の地域福祉ソーシャルワーカー（以下「CSW」）・区社協校区担当職員（以下「CW」）がこれまで取り組んできた地域支援と同様のものである。

資源開発	CSW・CWのこれまでの支援例
不足するサービスの創出	各種ボランティアグループ（生活支援、傾聴、音楽、外出支援など）の立ち上げ支援 地域福祉課題の共有（住民福祉座談会）から新たな活動へつなげる支援
サービスの担い手養成	各種ボランティア養成講座（区・校区）の開催 地域での支え合い活動の必要性を共有する住民福祉座談会の開催
元気高齢者等の活動の場の確保	居場所づくり（ふれあいサロン、地域カフェ、ラジオ体操の会など） 活動の場づくり（ふれあいサロン、地域カフェ、各種ボランティアグループなど）

- ・社協のボランティアコーディネーターは活動希望者の支援を中心に行っており、「新たなサービスの担い手発掘」につながっている。
- ・「サービス提供主体や関係者とのネットワーク構築」は、社協では「新地域支援構想会議」に準じる市内の非営利団体との協議体を、年度内に結成する予定である。



- ・生支Cに望まれる「地域における助けあいや生活支援・介護予防サービスの提供実績がある者」「中間支援団体等で地域でコーディネート機能を適切に担える者」という人材像に、社協のCSW・CWは最も近いと思われる。

2. 社協で生支Cを担う具体的な構想に向けて検討が必要な事項

- ・生支Cに適切な人材の確保及び配置・拠点について
- ・生支Cに対するバックアップ体制の整備について
- ・市圏域、区圏域、中学校圏域に配置される生支Cの連携について

【参考】 新地域支援構想会議からの提案（別紙より抜粋）

- ①自治体や地域住民に対して、助け合い活動が目指すものを伝える
- ②助け合い活動団体の協働の場（協議体）をつくる
- ③協議体での議論を基盤として、コーディネーターにふさわしい人を選ぶ